

単元名 □を使った式

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) □を使った式に表したり□に当てはまる数を求めたりすることができる。
 (2) □を使って、問題文を図や式に表すことができる。
 (3) 言葉の式や□を使った式に関心を持ち、進んで活用しようとする。

標準的な展開例

03040305_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 分からない数を□として、式に表す。[p. 94・p. 95]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「みんなで考える問題」を読み、問題場面を把握する。 ○ふくろのあめの数が10個、11個、12個のとき、全体のあめの数を考え、表にまとめる。 ○分からない数を□で表すことがあることを知り、あめの数を求める式を作る。 □ + 4 ○20個入りのチョコレートのうち、何個か食べたときのチョコレートの数を式に書く。 ○単元の学習課題をつかむ。 ★□を使った式について調べていこう。 <p>2 加法・減法の場面で、□を使って立式し、あてはまる数を求める。[p. 96]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「みんなで考える問題」を読み、1袋のあめの数を□として式を作る。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★□にあてはまる数のみつけ方をせつめいしよう。 ○□にあてはまる数について、考えたことを説明する。 ○20個入りのチョコレートのうち、残りが13個になったとき、食べたチョコレートの数を見付ける。 <p>3 乗法・除法の場面で、□を使って立式し、あてはまる数を求める。[p. 97]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「みんなで考える問題」を読み、1袋のクッキーの数を□として式を作る。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★□にあてはまる数を見つめよう。 ○□にあてはまる数について、考えたことを説明する。 ○32個のキャラメルを同数で8人に分けたときの1人分の個数を求める。 <p>4 算数の問題を作り、その問題文に合う図や式を考える。[p. 98・p. 99]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○90円のうち40円を使うと残りは何円になるかという場面を言葉の式や、図に表す。 ○使ったお金や、初めのお金を求める問題文を読む。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★□を使って、問題文を図や式にかこう。 ○図や式を使って、考え方を説明する。 ○色紙を何枚もらったか求める問題を□を使って図や式に表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あめの個数を求める問題を読ませ、本単元の学習課題を理解させる。 ・関係を表や図に表し、児童が理解しやすくなるよう配慮する。 【評】あめの数を□を使った式に表す活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を理解する。 ・食べたチョコレートの数が分からないので、□で表すことを確認する。 ・立式を考える段階で、未知数を□で表すことで数量関係が式に表されることに気付かせる ・□にいろいろな数を当てはめさせたり、図にかいて考えさせたりする。 ・ペアやグループで説明し合うとよい。 【評】□に当てはまる数を説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・言葉の式や線分図を使って説明させるとよい ・未知数を□で表すことで、数量関係が式に表せ、九九やわり算を利用して解くことができることに気付かせる。 ・□にいろいろな数を当てはめさせたり、図にかいて考えさせたりする。 ・ペアやグループで説明し合うとよい。 【評】□にあてはまる数を説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・言葉の式や線分図を使って説明させるとよい ・言葉の式を基にして、図や式を立てさせる。 ・それぞれの問題場面について□を使って児童に考えさせる。 ・ペアやグループで説明し合うとよい。 【評】□を設定した根拠を説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

本単元では未知数(量)を□を使って等式に表し、その□の中に入る数を求めることがねらいである。式を立てる段階として、最初は□の中に入る数を予想し数量を求めることで、当てはまる数を考えさせる。次に言葉を使い、決まった数量は置き換え、未知数のところは□に置き換えるといった段階を追って進めていく。そして、児童が立式に慣れてきたら、直接等式を立ててもよい。

また、□を使った式から答えを求める場合も、最初は児童に□に入る数を予想させ、検算しながら正解を求め、次に計算して求める方法を考えさせるとよい。